

北中南米チーム 生田亨部会長に聞く 「全体として動く」統一感が重要

今号では北米をはじめ、中南米、ハワイ、ミクロネシアと広範に及ぶ多様なグループの部会長を務める(株)JTBワールドバケーションズの生田亨代表取締役社長に、同方面における課題認識や活動の方向性などについて語っていただきました。

輸送力が拡大した

——北中南米方面における現状認識について、お聞かせください。

生田 まず、アウトバウンド促進協議会として何を指しているかということ



(株)JTBワールドバケーションズ 生田亨 代表取締役社長

ハワイはオアフ島以外の

隣島開発も重要テーマ

——ハワイについては、如何でしょうか。

生田 ハワイでは、すでにハワイ観光局が若年女性層や家族層などカテゴリー別にマーケティングを展開する取り組みを進めていますから、その時々を取り組みに応じて北中南米チームとして対応していきたい。ハワイについては、MICEも大きな可能性を秘めています。オアフ島では、すでに十分に取組まれていると思いますが、隣島でのMICEの需要開発はかなりの余地がありますから、旅行会社にとっても非常に大きく重要なマーケットです。

——3つに分けられた地域毎の課題としては、どのようにお考えになっていますか。

生田 まず、北中南米の大陸では、ステイネーション開発が最大のテーマになると考えています。メキシコ観光局のギジェルモ・エギアルテ局長には北中南米チームの副部会長を務めていただくことになりましたが、メキシコを軸に中南米のステイネーション開発を積極的に進めていきたい。特に、メキシコはANAの新規就航とアエロメヒコの増便で、南米への大きなゲートウェイができたわけですから、より本格的なアプローチも可能になるはず。

——もう一つのミクロネシアはどうですか。

生田 こちらは、逆に、座席供給が非常に不足しています。航空機材の小型化が非常に進んでしまい、かつてのようなキヤパシティが望めないため、もっとチャーター便が運航されるように、旅行業界と観光局が一緒になって環境整備に取り組みなければなりません。また、定期便についても、新規キャリアによる就航を応援したり、チャーターも含めたLCCの路線展開を促すような動きも必要になると思います。

協議会として

個別キャンペーンの一本化も

——北中南米チーム全体として目指す方向性をお聞かせください。

生田 3つに分けた各地域の課題はすでに述べた通りですが、全体としては、政府観光局や航空会社、旅行会社が個別に行っているキャンペーンなどを、アウトバウンド促進協議会のチームとして一本化し、方向性も合わせて効率的に展開することで、より大きな成果が得られるようにしたいと考えています。また、ファームツアーなども、旅行会社各社の企画担当者と政府観光局で協議会を通じて調整し、現地で見たり感じたりした素材が商品化に結びつくような実効性の高いものができるような役割を果たしていければと思っています。